



も み じ

第5号

【ホームページ】<http://akihaku-dai1.city-niigata.ed.jp>



～玄関前の朝顔開花～



「絵本」は心の栄養源

6月20日に絵本講演会を開催しました。講師は、当園CS委員であり前新潟中央短期大学教授の白井 智佳子 様です。白井先生は元市立幼稚園長でいらっしゃる、長年新潟市、新潟県の幼児教育をけん引されてきました。

今回は、「絵本は子どもの心を豊かにする」をテーマにご講演いただきました。まず、心の成長を支える脳の形成が土台にあり、ここに、基本的生活習慣（睡眠・食事）、優しいスキンシップ、温かい言葉がけ（コミュニケーション）、楽しい遊びや関わりを通じた愛着体験の積み重ねが、豊かな心やたくましい心を育てることにつながると語られました。そして豊かな心やたくましい心を育てるためには、絵本の読み聞かせがその助っ人になり、読み聞かせを通して、たくさんの言葉に出会い、たくさん冒険し、お話の旅をすることが豊かな心を育み、様々な力を獲得していくということでした。未来ある子どもたちに、豊かな人生を送ってもらうために今、何を大切にしなければならないかということ投げかけられました。

絵本もたくさん紹介されました。『めのまどあける』『こすずめのぼうけん』『さんびきのこぶた』（いずれも福音館書店）など、特にイギリスの昔話である原作を忠実に絵本化している『さんびきのこぶた』は初めてふれる方がほとんどでした。昔話の残酷なところや登場する3匹のこぶたは一人の人格の中にある様々な自分であるということでした。弱い自分であったり、知恵と勇気をもって立ち向かったりする自分が表され、人間のありようを意味することに参加の皆様はじっくりと耳を傾けていられました。

「教育」は人と人の中で織りなされることです。幼稚園でも子どもと先生の関係がしっかりつながってこそ、初めて幼稚園教育が成り立っていきます。その関係をつなぐものの一つに絵本があり、「言葉」が大きな力をもっています。子どもは、絵本の絵や語られる「言葉」から、自分が体験したことを重ね合わせたり、体験したことのないことに心を揺さぶられたりします。そして、現在、過去、未来を自由に行き来し、笑ったり泣いたり時に怒ったり心配したり、様々な感情体験をすることができるのです。

子どもたちに心を込めて語りかけることは、その子の心を育てることにつながっていくことだと思います。幼稚園では先生、ご家庭ではおうちの方の心を込めた愛情たっぷりの「言葉」をそれを丸ごと耳にしながら、心を成長させ、やがて子ども自身も豊かな言葉を使うようになっていくのではないのでしょうか。「絵本」は心の栄養源ですね。

保護者の皆さん、次はどんな絵本を手にしめますか？



谷川俊太郎ぶん 長新太え



瀬田貞二やく 山田三郎え



絵本講演会の様子